



世界各地の生活文化・考古美術資料を収集・研究・展示する『天理参考館』 ～創立 90 周年特別展「スポーツの歴史と文化」を開催中 (8/2 まで)～

■1930 年創設の歴史ある博物館

天理大学附属天理参考館は、1930 年に中山 正善^{なかやましょうぜん}氏（天理教二代真柱^{しんばしら}）により創設された。同氏は天理教の海外布教に積極的で、そのための人材育成にあたり、言葉の習得だけでなく現地の風俗・習慣を学ぶことが必要と考えた。そこで世界各地から生活文化・考古美術資料を多数収集し、現在は約 30 万点にも及ぶ資料を収蔵する博物館となっている。

■世界的に貴重な収蔵品をわかりやすく展示

常設展のエリアでは「世界の生活文化」、「世界の考古美術」という 2 つのテーマで計約 3,000 点を常に展示している。

内容は、世界各国の様々なカテゴリーからなる文物のテーマ毎の展示で、文化が伝播した過程をたどることで世界のつながりを体感できるよう順路を設定するなど、来場者にわかりやすく工夫がなされている。

■創立 90 周年特別展「スポーツの歴史と文化」

同館は創立 90 周年を記念し、2020 年 6 月 10 日（水）から 8 月 2 日（日）まで特別展「スポーツの歴史と文化」を開催。本特別展ではテーマに合った同館の収蔵品のほか、国立民族学博物館、天理図書館、スポーツ団体・選手等の協力を得て合計 109 件の資料を展示している。

今回の展示では、特定の民族や地域に古くから伝わり人々の暮らしと密接に結びついていた「民族スポーツ」に焦点を当てている。民族スポーツは狩猟や戦い、通過儀礼や宗教など日常生活の中から発生し、そこに「楽しむ」「競う」などの要素が加わり受け継がれていったもので、各地域の豊かな精神文化を象徴している。また本来は東京五輪の時期であったことからオリンピックにちなんで古代ギリシアのメダルや金製月桂冠、天理大

学出身者の金メダルなども展示されている。

早坂文吉学芸員は「多くの方に協力いただき充実した内容となっている。新型コロナウイルスの影響で延期となっていたが開催することができてよかった」と特別展への思いを語る。なお、10 月～12 月には第 2 弾として「大航海時代へマルコ・ポーロが開いた世界」の開催を予定している。

■地域との共生で地域の魅力を発信する

同館は、歴史や文化に関する知見をもとに豊かな地域社会づくりにも貢献している。天理市や同教育委員会、同観光協会などと連携し、幅広い世代が楽しめるワークショップなどを開催しており、各種プロジェクトは地域から好評を得ている。

中村滋子主事は「今後とも博学連携による地域の魅力発信に取り組んでいきたい」と語っており、地域とともに発展する同館の新たな取組みに期待が高まる。
(秋山利隆)



(左上から時計回りに) 同館外観／特別展／常設展「世界の生活文化」北京の看板／常設展「世界の考古美術」オリエント

【所在地】天理市守目堂町 250

【アクセス】JR・近鉄天理駅からバス 6 分（徒歩 20 分）
天理・天理東の各インターから南へ約 3km

【開館時間】9:30～16:30（入館 16:00 まで）

【休館日】火曜日（一部除く）、夏季・年末年始他

【入館料】大人 500 円、団体（20 名以上）400 円、
小中高生 300 円（学校単位無料）、その他各種割引あり

【URL】<https://www.sankokan.jp/>

【TEL】0743-63-8414 【FAX】0743-63-7721